許さない、然し夫れは表面な話で、弱國の此禁令を全國一般に向つて隈なく實行し、嘗つて違犯者のないようにする事は出來ぬ、況して地方の政治はトント地方の知事若くは郡守の專行獨斷にあるもの丶如く、地方官吏は例の賄賂でも受けようものなら、知つて居らうとし知らぬ振り、何等でも買ふことが出來る、然かも土地所有權を得るの方法に至つては日本內地人間に於ける通りに、公然外人たる邦人の有となし難いによつて、時には自分が使つて居る韓人乃至は、最も信用する者の名義で買ふとか、內實は買求めても表面には其土地に對して、所謂地上權、永小作權、賃借權の如きものを得た契約をする、早く云へば地所賣渡證書は內實の證書で、是は只表面外人に賣つたのではない貸したのだと遁辭を設くる證書、此二つを取つて置く、又或る場合には賣つた者をば新たに小作者の地位に据付かせるなどは、却つて賣つた者が買つた者に向つて、

後日不都合を働かぬ政略ともなるであらう、何れにせよ朝鮮には日本の如くに不動產の賣買に登記方法があるでなし、イヤモー是等の法律は完全して居ぬ故、何んな風にも容易に出來る譯で、一度手に入れた以上は土地の上に實力上の占領を充分にする、よし其間に多少の問題紛擾が起るとも平氣の平坐で、占領を堅くし彼れに對抗するが肝腎、そこは日本人と朝鮮人事に當れば何でもない。

一私人より買ふ場合は右の次第だが、尙此外開墾其他の名義を以て官林田畑の拂下を爲すの方法もある、云は丶吾人が日本に於て北海道を始め其他各所の官林田畑を拂下げると同じ道理で、各道至る所に然かも廣大な官有地が散在して居る、夫れには先づ地方の官吏と結托し、最も秘密に賄賂手段を實行すれば、金に目の無き韓官吏は必らず之を許可して呉れる、否な是等の例は珍らしくないので、賄賂手段は殆んど萬事を遂ぐ

るに一慣習として認められ居る傾、郷に入つては郷に從ひで、トシ〳〵遣り通すに限る、徒らに正義呼ばりをしてあつたものでない、日本人同志の間柄なればいざ知らず、彼れ韓人相手の事、例令所有權を得たからとて土地を日本に持ち歸る譯でもない、結局は多く其利益を得るの目的に過ぎぬのであれば、毫末も遠慮する筈はなからうと思ふ、居留地十韓里以内は公然所有の權利を認められてあれば、是等はよろしく領事を煩はして、忽ち監理使の公認を受け、然る後何なりと事業を企てられる。

手に入れた土地は如何にすれば利益あるか、自作、貸付け何れが此二の方法を取らねばならぬ、著者が在韓の知人は農業專門に視察し、全羅道各地を巡廻しつつあるが、知人此點に付て詳細なる報告を著者に送られた、今之に依つて諸氏に其一斑を紹介するなれば、自作は比較的面

白くない、寧ろ之を韓人に貸付けそして小作料を得るが得策で、素早き日本人は各地に金主となり、地主となり、利益を穫めて居るのだ、聞けば小作料は朝鮮一般の習慣として、收獲の半を小作人が取り、他の半を地主に渡すといふ定めたさうで、加之に租稅は小作人が納めるのだ、して見ればよし何なに米穀が取れぬ歳でも、約束通り地主に例年收獲の半分を取られるから、地主に於ては先づ以て安心な譯だが、小作人は往々肥料代も取れずに仕舞うなど、其結果は自活に窮する場合も出來て來る。

此邊より研究すると、韓人から土地を借りて小作農業はちと馬鹿〳〵しい、之と反對に地主の位置に立ては無事な譯で、年々資本の三割乃至五割に當る利益がある、と云つて自作致した處でそう旨くは行かぬ、寧ろ十の田畑を有つて居れば、七八丈は他人に貸して小作料を取上げ、あと

の二分は例の副食物や果物を得るの方法を講ずるが得策であらう、何故なれば自作となる以上は、自分獨りで耕作するといふ事は元より困難な話、多くの勞働者も使役すれば、收獲を得る迄には費用を要するのみか此國の慣習と致して往々郡守に賣上をしねばならぬ、云はゞ郡守は極安き値で徵收したものを、後日再び住民に賣り下げるような始末で、農民の困難は非常なもの、自作すれば小作料を納むる氣支はないけれとも、其他の點に於て小作人と同じ不利益の地位に立つ、さすれば先づ自作は餘り見込みあるものとする事は出來まい。

思ふに農業の地は、忠淸慶尙全羅の三道で洛東江、漢江、錦江の沿岸に於ける、實に三南富源と申し、我同胞の手を假りたならば、期して荒蕪の地も驚くべき良田畑と變じ、著るしき產出額を增すに定まりて居る、殊に賣買價格に至つては日本に比して其五分の一位に相當し、一反歩下

は五六圓より四十圓位で、借賃も其通り極めて安く借り得られる、農業に志ざす者の時機は將さに此際である、徒らに內地に在つて大地主の奉公をなすよりかは、速かに行つて遺利を獲得するに限る。

商業の各方面

商業に至つては何うか、各地物產の種類と、陸海交通の如何によつて趣きを異にする、今後の韓人は總て日本の文物に倣ふて行くのは定まつた話で、商業取引も日に增し多くなつて行くのは目に見へて居る、試みに、京城、仁川、釜山邊の有樣に徵するのに、一から十まで日本流行で日本の品と見れば喜んで求める、が未だ開けぬ所に入り込むとうは行がぬ、所で商人の第一に注意すべきは韓國の物產と、韓人の需用品との關係である、何處迄も彼れに不足ある品を研究し、彼に餘りある品を我に

取る、今日日本始め各地より朝鮮への輸入品は綿、絹織物、木綿織物、煙草、酒類、賣藥、西洋小間物及び諸雜貨で、又朝鮮固有の產物と申せば、人參、大豆、米穀、牛皮、牛蠟の類に屬し、內地に餘りある分は海外に輸出される、然し輸出人の總計に於ては、當底輸出は輸入の十分の一だにも足らぬ。

そこで朝鮮には毎月定まつて市が開かれる、此日は各地の商人が市場に來て取引をするので、日本への輸出品如きも茲にて一度韓商に落ち、夫れから釜山、仁川、元山等の各港に運ばれ、始めて日本に輸出するといふ始末で、其間彼是れ利益を占められる、して見れば先づ我商人は此市場に直接取引を試み、彼れ韓人を排して彼の產物を我に取る、さすれば結局彼等の儲ける分丈安く日本にも送り得らるゝ都合で、又輸出品に付ても其の如く、直接に市場に賣買を試みたならば、夫れ丈韓人も喜んで

買う、詰り市場の商人とても直接であれば、從來釜山、仁川、京城、元山各港の仲買若くは問屋に幾分か儲けられるものが、今度は直接賣買で安くなる譯故、屹度進んで求むるに相違ない、總てかふいふ風に韓國で取引するも韓國は日本內地のような積りで、大きな考を以てドシドシやるに限る。

以上は聊か大取引に付て申したのが、更らに小賣及び行商をする場合には何うであらう、何でも韓人の嗜好に適する所と、彼等が富の程度等を研究する必要がある、聞けば機敏なる我商人中には京城仁川に店を出し日本軍隊勞働者を始め韓人を相手に、日用品、雜貨などを販賣して少なからぬ利益を得たものがある、中にも我先に賣藥の行商を企てた人もあつたが、未開の韓國、醫師といふ醫師もなく、況して內地に入り込んだ日には、勝手氣儘な丸藥若くは煮藥を服して、病氣を癒すいふ有

様で、殆んど此點に於ては野蠻極まつて居る、然るを日本の賣藥が彼の地に行つてからは、忽ち一服其効驗が知れたので、甲より乙、乙より丙と一般に之が傳はり、今は全く常用に〳〵せん者はなき位、流行程恐るべきものはなしで、少しく餘裕ある者は清心丹寶丹儲てはゼムなどの類を携帶し、さも威らさうに飲んで居る、若し夫れ賣藥にして右の如くなれば內地の開業醫が彼地に始めたならば、必らず流行することは疑ひを容れぬのである。

小賣品に付ては先づ衣食住に日常必要なるものを始めと致し、學校道具男女西洋小間物類、時計其他の附屬品、理髮器械何でも見込みがある、今より二十年前の日本だとかふ思つて、牛肉店、蕎麥屋、居酒屋思ひ思ひの事をやつて見る、書籍雜誌店又大に有望な商賣で、行商は其以前日本で賣藥の行商が流行し、至る所千金丹、萬金丹などか賣れたやうに、今後は各道の邊僻な地を賣り廻はるもよし、決して賣藥に限つた事はあるまい、小間物、呉服太物類、陶器塗物、洗濯曹達、玩弄品、砂糖菓子、煙草、農具機械、鋏、錠前、小刀、鍋、釘の諸種又最も面白ひ、だが餘り價の高い品は比較的貧乏國の人民だけに買ふ事を避ける、否な買ひ切れぬ譯であるから、出來る限り安値に堅固な品を賣る、何をするにも始めが肝腎で、確實な堅固な品を賣らぬと一度に凝りて、日本人の品は忽ちペケと云つて排斥する、元來朝鮮人は他國人からすれば正直で、從つて取し易すければ、若し一度買つてよいとなれば直ぐに之を信頼する、此機に乘じて益々確實な品を賣れば、殆んど日本の品、日本人の賣つて居る物でなければ、ならぬとの考を起すのである、かふしてこそ我が永遠の利益であろう。

朝鮮の道路は支那に於けるが如く、交通至つて不便なれば、先づ商人は

便利の地より商賣を始めて行く、京釜鐵道敷地の附近にはポツ〳〵日本商人の開店する者も身受けるが、まだ充分に身込がある、各停車場附近に出すべき商賣も心懸けてよからふ、大商人は路傍其他の廣告手段を籍りて、盛んに營業を擴張し、顧客を迎へる事も難くあるまい、北海道の函館が開け始めた當時のように、日本人のみを目的に營業すべき商品も澤山ある、彼れ勞働者に對する食料、雜貨、袢天、足袋、下駄の類も必らず三四割以上の利益がある、處で婦人向の品は元と朝鮮の國風として、下等社會は兎もあれ、中流以上の身分ある者は外人と親しく會ふことをせんので、自然と商人が品を彼れ婦人の前に出し、嗜好の物を撰らばせる機會を得ない、これにはトンと閉口する、ろコで內地の事情を知らぬ商人は、折角持つて行つた品を賣らずに歸ることが往々ある、だによつて玆はよろしく日本婦人の行商をやらせる、婦人間なれば又違ふ

もので、彼れ等も親しく會ふて呉れる、從つて商品を賣り付けるの便宜を得よう、此點に付ては諸氏の大に注意し、且つ實行を急ぐべき事とかふ信じて疑はないのだ。

商品の賣買以外に爲すべき營業は澤山ある、例令は大は銀行業より、小は金貸業、家屋貸付け、時計諸機械の修繕、湯屋、鍛冶、古物商の如き中にも朝鮮人はよふ湯に入らない、然し段々日本の風に化し且つ入浴の快味を覺ゆれば、每晩の如くに入りに來る、殊に在韓日本人には是非とも必要な譯で、韓人のやつて居る湯屋と申しては、如何な京城釜山にも見當らぬので、悉く日本人が開いて居る、今後益々日本人が入り込むに從ひ、次第に湯屋の必要は起るべく、鐵道、建築等の土木工事に從ふ勞働者在住の地には、進んで湯屋を開くが利益であらう、續いて諸種の興行物も充分金儲けになる、何れにせよ廉價で所謂數でコナス主義を

以てし、客を呼ぶの手段としては景品其他の方法を取り、時には賭博類似のやり方でしようものなら、恣深き韓人共僅かな錢で十倍百倍もの品を手に入れんものと、先を爭ふて其處に集まる、現にコンナ事で非常な金を儲け日本人は、數名もあつたといふ話だ、推して他を知り得られるのである。

諸種の製造と工業

朝鮮内地の有様は、前既に説明した處を以て、如何なる製造業に從事し又如何なる工業をなせばよいか、須らく需用の趣く所に注意すべきだ、彼れ肥沃の地には天與の産物あるも、之を得之を製するの智識と實力に乏しければ、我日本人は巧みに韓國内地の物資を以て、諸種の物品を製造し若くは工事を營むことが出來る、今主種類の重なるものを列記すれば。

▲織物工場　萬事が日本風に化するに付けても、先づ衣食住が倣らへ易すいので、彼地に於ても綿や蠶業などは相應にやつて居る、加之に土地は安く、木材は有り餘まる所から、工場を建てるといふても東京如きとは、既に費用の點に付ても安上りで、夫れに使役する男女工の賃錢も極めて少額を仕拂へばよろしい、否な此方の云ふ通りに使はれる、今後の朝鮮は急劇の勢を以て進化すべければ、日常の衣服等は勿論附屬物迄も日本製の呉服太物を以て仕立るようになるであらう、只夫れのみならず玉る所日本人を以て滿たすべく、一々之に供する織物を日本から仰ぐとすれば、雜費の爲めに當底安く賣る譯に參らぬ、寧ろ其地に於て韓人が嗜好すべき織方、縞柄、模様、品質等に注意したならば、必らず賣行を見るに定まつて居る、況てや物資が安く供給さる一點に照しても、工場

設計の大利益大得策なるを、信じて疑はぬのである。

▲紙類製造　文物の發達に連れて總ての用紙は、著るしく其數を增すことは、我國近來の事實に依つて明瞭する、曰く學校、諸官廳、新聞社、諸商人夫れ〳〵需用の程度を高める、然かも朝鮮內地には是等の原料に餘り返る位で、其上水の便利があれば機械を運轉するにも容易であり、勞働者は主要の任務に就く者を日本より送り、他は土地の男女を募集する、前申した通り各方面の經費が安上りで出來るから、從つて賣るにも都合がよい、毎によつたら朝鮮で製したものを日本內地に輸送するも利益であらう、否な或は靜岡、名古屋、王子、千住邊で製したものよりも却つて上等で、安上りに出來るかも知れぬと思ふ。

▲酒造業　朝鮮人は酒(濁酒)と煙草とを好むことが非常なもので、殆んど十中七八人迄も用ゐて居る、成程平安、黃海兩道の地方には煙草も產出すること加減の味を付けた一種獨得の酒を製造したならば、必らず巨利を博するであらう、曾に韓人のみならず在韓日本勞働者に向つても、巨額の賣行を見るは定まつた話である。

▲罐詰漬物製造　牛豚其他の家畜類は朝鮮內地に澤山飼養されて居る、

るし、地味誠に適當した所もあるが、如何せん企業の精神に乏しい朝鮮人の、勢ゐ外國より輸入を受けて居る、殊に卷煙草の如きは殆んど日本から輸出する有樣である、是れと同じく酒も濁酒は飲まぬ者なく、夫れ〳〵商店、料理店にて商ふて居る、然し其割合に淸酒は賣れない、これは全く韓人の口に適せざる譯であるか、聞けば飲む時は大分心持はよいけれども、知らずたんと飲んで後には酔も甚だしく腦を刺擊する、そこで韓人は之に凝りて飲まぬさうで、或る將校で著者の學友は此點を詳細く報らせて來た事があつた、して見ると先づ韓人の口に適するよう、よ

年々牛のみにても日本に輸送すること千二三百頭に及ぶことは、然かも農商務省の統計に徴して明かで、豚類は日常の食料品に用ゐられて居る、して見れば一面には家畜を飼育し、一面には罐詰の製造をする、既に物資に富みながら、之を製造するに氣力に乏しい國民であれば、此際日人本がドシ〳〵行つてやるものなら、儲かることは分り切つて居る、漬物類に付ても此の如くで、安値な地代を拂ふて、諸他の野菜を栽培し一面には漬物製造工場を建て、盛んに各地に賣り出したなら何うか、若し著者をして彼地に事業を經營するものとせば、第一に漬物製造に着手する考を有つて居る。

▲藥種肥料製造　これ又原料に富んで居るし、農業の改良發達は、政府始め各地民の幾分か注意を加へし所なれば、今後續々需用を見るであらう、藥種は一半を韓國内地に販賣し、他は日本に輸送して、出來得る限り歐米諸國より所謂輸入品を減少せしめる、此は實に一國の經濟に大關係を來す譯である、殊に日本の賣藥は最も著るしく信用を博して居る事は、前に說べた通りであれば、此際態々日本から送る代りに、彼地に於て製造し、直ちに其他の商店に賣り付くる、詰り製造する以上は販賣（卸小賣）は之に供ふもので、信用するに足る韓商人は、例の依托販賣方法を以て擴張し、商店なき見込ある地には出店すべく、其他は行商販賣の方法を取る。

▲鳥獸剝製　由來韓國には珍奇らしき鳥が棲んで居れば、獸類も居るので、此剝製業は大に有望である、上等社會は兎角かふいふ品を珍重して、裝飾品とする者多い、だに依つて内地で賣つた外に弘く歐米各國に賣り出すがよい、日本とは違ひ銃獵家も少ないから、至る所に棲息し、從來行るゝ、方法を以てすれば、何程でも捕獲する事が出來得る。

▲建築諸工事請負　此業の有望なるは強ち論を俟たぬ話だ、が夫れには先づ將來鐵道、工場、橋梁、學校、病院等種々の建築土木工事の着手さるべき方面を調査し、そして官署私人に交渉し引受けるより外はあるまい、尤も今後日本人の入り込むに從ひ、家屋の築建も當然される譯であれば、之に心得ある左官、大工、家根屋、さては疊屋、建具屋夫れ〳〵彼地に行くべしだ、賃金も高く生活費は安いといふ風で、日本で僅かな手間賃を取つて居るよりは、必らず割がよい。

以上述べた外に石炭、鑛山業又大に見込もある、然しこれは少し許の金では始まれない、故に先づ地彼相當の職業を求め、傍ら有望なる鑛區を發見した後に、日本の金主を呼び寄せて、協力着手するが得策であると思ふ。

河海の産業

朝鮮は陸に於て、夫れ此の如く天産に富んで居る、河海に於ては尚更の事である、彼等は陸上の事業にてさい全く行き渉つてないから、況して河や海に在る多くの産物を得ることは出來ない、今聊か將來に有望な事業を擧げて、讀者諸氏の參考と致さう。

▲河魚採り　朝鮮内地の河には何んな魚が棲んで居るか、日本と同じ様に鯉、鮒、鰻ありとあらゆる魚が居る、然かも鮎魚などと來ては驚くべき程で、彼れ拙劣な漁法を以てさい非常に取ることが出來たとの話は著者が實驗家より確めた所である、若しも日本の魚獵家がやるような手段を以てしたならば、必らず大擧に大漁を得ると定まつて居る、近來日本人の入り込むに連れ、各住地の料理飲食店では、一層河魚の需用が多

いけれども、其割に魚の沸底する爲めに、何時しか相場も騰貴したのである、殊に朝鮮の河は流れも強からず、深からずで漁をするにも極めて樂な方、日本にて渡世として居るよりは、何の位儲かることか知れぬのだ。

▲海産物　海に於ては之れ又房州、九十九里、さては北海道の海濱見たように、各種の魚、鳥獸等殆んど無人島の如くに棲息で居る、又海草類も澤山であるが、何を云ふに韓人は之を獵るの手腕と機械に乏しく、彼れ濟州島などには我漁獵師が行かぬではないが、永く其地に止まつて形勢を見、經續して後日の大收得を計らぬのである、食鹽も各海濱に產するけれども、之れとて製法に達して居らぬので、勢ゐ日本より輸入致してるのだ、然かもは常必要なる品に對しても此の如くなれば、企業家たる者宜しく此點に着眼して可なりだ。

以上は其大略を述べたもの、詳細に至つては實地に當つて深き研究をして貰ひたい、只茲に望む所は、必らず時機を失する勿れで、既に韓國內地に內外の住民充滿し、我先に事業を企だてた曉には、將さに制せられて折角の巨利も博し難くなる、さすれば諸氏は其行を急くが肝腎であらう。

我領事の管轄區域

日本人が朝鮮に行くには別に旅行免狀は要らぬが、若し一度彼地に渡つて後に各港里程外に出るには、夫れ〳〵目的を明かにして所轄帝國領事館に届け出で、そして該領事館が地方官の承認した、路照即ち旅行券を貰はればならぬ、それには領事館の管轄區域を心得るが肝腎である、今之を紹介すれば。

釜山帝國領事の管轄區域　全羅道　慶尙道一圓

仁川帝國領事の管轄區域　忠淸道　平安道

黃海道各一圓並に京畿道の西部

京城帝國領事の管轄區域　京畿道の一部
元山帝國領事管轄區域　咸鏡道　江原道

そして京城には公使館がある、兎角旅行の事のみでない、身分に關し事業に關して、認可届出等を要する場合には、領事館か公使館を煩はさゞればならぬ。

韓國に流通する内外貨紙幣

貨幣には韓錢と新貨幣との二つがあつて、韓錢は更らに葉錢、拾錢、尚は五錢に分つて居る、何れも我國の文久錢や二厘錢に似て居るもの、うして新貨幣は銀貨、銅貨との二とし、銀貨には一兩と五兩とあり、五兩は本位貨幣で、一兩は補助貨幣となつてをる、又銅貨は白銅、赤銅、黃銅の三貨幣に區別され、何れも補助貨幣である、そこで貨幣の單位は分で、十分をば一錢、拾錢を一兩とする、して此一兩は我二十錢に五兩は

一圓に相當する事になつて居るもの、信用なき韓國なれば此邊の價格にも變動が甚だしいから、從つて必らず右の如く流用すると、斷言する譯に行かぬ。

然らば外國の貨幣は、何んな有機で韓國に流通するか、今日の所では殆んど日本の保護を受け、日本の勢力範圍に屬して居る所から、流通すること甚だしく銀貨銅貨を始め、一覽拂の約束手形、紙幣は勿論のこと、軍用切符も京幾道平安道などには流通される、之に反して露國の貨幣は勢力信用を失墜し、殆んど慶興附近豆滿江沿岸に流通する丈で、殊に我勢力を擴張するに從ひ、彼が流通力を減少されて來たのである、獨り支那貨幣即ち馬蹄銀に至つては、支那人の居留地及び鴨綠江岸に流通するも、其額は誠に僅少である、今後益々日本の信用勢力を高むるに從ひ、日本の貨幣紙幣は勿論の事、手形の如きも悉く流通されて、日本内地の

ようなに定まつて居る。

京城の日用品勞働賃相場

京城に於ける日用品の相場や、我東京などよりは比較的高いので、例令ば白米は一升で普通十八錢より二十錢、牛肉は一斤三十四五錢、牛乳は一合七八錢、鷄肉一斤四十七錢である、更らに家賃に至つては日本街で假りに間口三間奥行六間と見て、一ケ月二十五圓より四十圓位迄、夫れ以下の家賃といふのはないと申してよろしい、尤も朝鮮從來の家屋であれば、從つて家賃極安値で、一ケ月二圓四五十錢からよい所で十圓内外夫れも一疊敷一圓位に見て差支なきものゝ、當然不潔で之を借家し、營業するといふのは寧ろ不便と云はねばならぬ、ろして韓人間の家屋貸借は、常に借賃相當額を豫納せしめる、内地で申せば敷金と同樣で、其代

りに毎月家賃を取り上げぬ、詰り此敷金より家賃を取り、敷金が無くならぬうちに更らに入れさせる慣習となつて居るのだ。

日用品の相場既に此の如くであれば、勞働者の賃錢も内地よりは勿論高いので、且つ支那人朝鮮人とは本人とで違つて居る、假りに日本の大工なれば、一日一圓二三十錢より一圓六七十錢位取るに、支那人は八九十錢、朝鮮人となれば七十五六錢位迄しら取れぬ、左官其他の諸職人に至つても同一で、車夫の如きは朝鮮人なれば一日六七十錢を以て雇入るべきに、日本人なれば二圓の賃錢を拂はねばならぬ勘定、下婢は東京で一ケ月の給金二三圓なるに、朝鮮では五圓から十圓位迄ある。

日、清、韓三國間小包郵便料

此間の小包郵便料は、二百匁迄は三十錢四百匁迄は三十五錢錢、六百匁は四十錢、九百匁迄は五十錢、一貫二百匁迄は六十錢、一貫五百匁迄は七十錢と定つて居るが、清韓各國内

に發着する小包料は、内地小包料と同じである。

渡航者の特に心得べき事柄

日本を出發する際及び、彼の地に上陸後特に用意しなければならぬ二三を茲に紹介して、渡航者諸氏の參考に供する、二度も三度も行つた人ならば兎も角、初めては内地の狀況を知らぬに依つて、彼是不便を來すことがある、著者は此邊を心配致して態々本題を設けた。

▲言語　何れの國にも行くのも同じ事で、其國の言語に通じてないと大に不便なもの、若し此不便を避くるには、豫め朝鮮内地に住まつて居る知人になりと紹介して、通辨を雇ひ入れるがよい、尤とも渡韓前に日用語など、修めて置くのがよからう。

▲服裝　は和服よりも洋服が輕便であらう、尤も生活上多年着慣れて居る和服は、夜間床に就く際や何かの時には必要なれば、之れも少しは持つて行くに限る、然し朝鮮の習慣として高官高位の人は服裝を美にし、且多くの伴人を連れ行くのであるから、矢張り日本人も其積りで行くべく、及ぶ限り身裝も飾るのが利益であらう。

▲携帶品　旅行中必要なるものは、第一雨具、提燈、手拭、寶丹、腹胃散、解熱丸、速下丸の類を持參すべく、石鹸虱蚤除けの類も用意するの必要がある、要するに韓國内地は殊の外衛生が進んで居らぬ所から致して、往々病氣に罹されぬとも限らぬによつて、此邊は充分に注意するに限る、又時としては旅行中邦人の口に適しないものもある、夫れ故副食物として思ひ付きの罐詰に、砂糖か醬油の少しも持つて行くべく、朝鮮では多く砂糖を用ゆること珍らしければ、自然と日本人には食べられない、此時の用意にもと必ず忘れてはならぬ、

▲紙と筆墨　旅行の際は勿論の事、常にかふいふ品は携ふがよい、萬一言語の分らぬ場合や、何か心覺の起る際には直ぐに用意の筆を執つて記入する、其他時々刻々に渉つて必要が出來れば、如何なる職にあるを問はず肝腎であらう。

▲詐僞連に注意　朝鮮人は概して親切で、極正直な方であるが、然し其中には恐るべき肝物もある、又我邦人中にて京城、仁川釜山邊に、ゴロツキ的山師連が居る、彼等は始めて渡來せし者が朝鮮の地理人情に通じないのを機として、巧みに詐る事があると聞いて居る、だによつてウカと輕信してはならぬ、何處迄も信用ある確實な宿屋に宿り、内地の知已朋友あれば先づ其人を問ふて、然る後に事を決するがよい。

▲賄路手段の慣習　朝鮮程賄路の行はれる所はない、著者は敢てかゝる手段を正當とは認めぬが、何に日本内地にてする事でもなし、況して朝鮮の慣習としてある場合に之を實行するの利益あるを認める、殊に地方官吏に至つては一層だらうで、先づ賄路をして後に事を計る、彼等は之を受けたが爲めにいやでも義務を果すようになる、由來中央政府を始め地方官吏に向つて、此主義を實行せん者は殆んど何事も成功せん傾がある、別して諸官所を目的に物品を賣付け、諸事の請負、拂下げ、許可を受けるには決して之を忘れてはならぬ、成功した後はなどいふ條件付は廢にして、着手前に賄路を行ひ、彼等をウンと言はせておいて取扱ふに限る、金に目の無き韓人の誰たるとなく、賄路をしようものなら理も非もなく甘諾するのは、豫め必得て貰いたいのだ。

滿洲の遺利穫得と渡航の急

抑も滿洲は土地が豐饒ではあるが、如何せん人間が少ない爲めに、然かも天然の産物を獲收めることが出來ぬ始末、彼れ暴惡極まる露國は、北滿事件後滿洲の地より撤兵すべき義務あるにも拘らず、陽には平和を唱へ、陰に海陸の軍備を增大して、其結果は旅順に軍港を設計し、何時しか滿洲全土を占領して仕舞つた、是等は遂に國際問題となり、偖ては日露の大戰爭を見るに至つたが、元來忠實勇武なる我將卒は世界の大強國と誇る、彼れ幾十萬の露國兵を相手に、戰鬪何十回、旅順を始め牛莊、遼陽、奉天、鐵領等あらゆる地を陷落して、今や將さに敵軍を滿洲領土外に驅逐せんとするの大捷報を吾人同胞に傳へたのは、誠に觀喜極まる話ではないか。

かふなつて見ると現在は勿論の事、將來に於ても實業に志ざす者は一日も早く彼地に涉つて、諸他の經營を試みなければならぬ、否な此時機を

利用致して、大利益を獲得すること最も愉快な譯であらう、日本內地の如くに國の小さい割に人民が多く、各人職を求めるに困難して居ることは事違ひ、所謂人力を以て天工を奪はれる道理で、至る所に遺棄堙沒してある天産物をば獲得したならば、何の位利益でもあり愉快な譯ではあるまいか、著者は切りに其行を勸めると同時に、今諸氏が參考として滿洲に於ける物產、地理、風俗、其他諸他の重要事項を紹介しよう。

內地の天產物

滿洲は黑龍江省、吉林省、盛京省（又奉天省とも云ふ）の三省に分れて居り、總じて氣候は甚だ惡い、夏季は暑いといふ所つたら非常に暑く、又寒い時には驚くべき程寒いことは、今回の戰爭に於て、如何に日本の軍人が露兵と戰つたよりかも、氣候と戰つた事の困難であつたかは、諸氏が新聞に

依つても御承知であらう、そんな譯で滿洲には寒熱兩帶に產すべき植物も繁殖し、中には造船の用に供せられるような大樹木がある、更らに穀類に至つては何うか、米、大小麥、黍、粟稷、蜀黍(俗に高粱云々)豆類の產出夥しく、殊に牛莊邊から日本に輸出する豆類の多額なのを見ても、彼地の產物に富んで居ることが分る、此外我軍の旣に占領した遼陽、錦州、海城邊では綿花が最も多く產出し、開原鐵嶺より吉林省一帶の地には、例の藍靛が主要の農產物として名高く、人參、油(種油の類)麻、亞麻、烟草を始め、諸他の藥品は殆んど無盡藏と申してよろしい、菓實類に至つても其通りで、若しも我が耕作法を施こしたならば、今日に幾倍かの收獲と利益を得るか知れぬ位、何を云ふにも野蠻なる人種の是等の事を辨へぬのであつたら天より賜けた產物を其儘に打ち棄てあるのだ、要するに松花江流域、遼陽の沿岸は農作地として最も有望である。

鑛物に至つては何うか、夫れは〳〵何處へ行つてもある、先づ砂金は黑龍江省の北部瑚馮河附近、吉林省吉林府の南方三十餘里の地及び同省の東北部等では、著るしく砂金が取れるけれども、天與物も其儘地中に埋められてある始末、銀と云へ鐵と云へ各洲出ない處はないが、悲い哉採掘の機械に乏しく、露國が延長した東淸鐵道に供する石炭を始、旅順ダルニー浦鹽地方の各軍港諸工事で用ゆる石炭如きは、何れも盛京省の各地に於て產出するものを利用した結果、彼程の軍艦も動かすことが出來れば、又何十萬といふ兵士を、自由に輸送することも出來たのである。

動物は何んなものが產出するか、恰度日本が今より百四五十年前の夫よりも、多くの獸類が彼地に棲息して居る、虎、熊、山羊、野猪何でも御座れで、獵師は內地に居つて雀や鳥などを打ち殺すのを廢めて、宜しく

滿州の野に偶ある鳥獸を獲るが得策ではないが、馬、牛、豚騾等の家畜類は最も多産するので、現に奉天旅順を陷落した際鹵獲した無數の軍馬は、是れ皆な露軍が滿州各地から徵發したもの、奥州邊の馬の飼養に經驗ある者は速かに彼地に行け、原野は廣く草木は繁茂り、殊に蒙古に接する地には世界にも名高き良馬を産出する、更らに牧畜家は彼地に牛羊豚を飼育して、傍ら縮詰、獸皮等の副産物を得るも將來大に有望と信じて疑はない。

△△魚漁に付ては、日本近海に未だ嘗つて見ない魚が、滿洲の海や河に取れる、尤も鮭などは土人が日常の食料品とし、時には各市府に輸送するので、切りに取つて居るさうだが、其捕獲機械と云へ、手段と云へ全々發達して居らぬので、從つて思ふように取ることが出來ない、獵師も少ない上に殊の外生育も早い所から、至る所に魚が多く棲んで居る、まさか採り盡したといふ譯でもあるまいが、扉にする、取れた時は少しは景氣付くが、昨今の如くに魚が無くつて市場の相場迄狂ふといふ有樣に引換て、貧乏を口にする海岸の生活者は、此際大に彼地に航し、一網に巨利を博しては何うであるか。

△△養蠶は大分日本でも發達し、且盛大を致して來たが、高い地所に桑を植えて蠶を飼つたのでは餘り澤山の儲けもなからう、時には氣候の變遷で折角苦心して育てた蠶も、三眠か四眠時に皆な無益になつて仕舞つたなど話は度々聞いて居る、中には畑を有たぬ者が蠶を飼ふて、他から桑葉を買ふなどといふような譯では、出資勞力と得たる利益とは果して何うであらうか、強ち損にもなるまいが、ソンナ始末では當底蠶業の盛大を期する事は出來ぬ、そこで著者は此好機會を利用して、滿洲の大地に養蠶をやつて見ることを、普く事業家に勸める、現に金洲や復洲にては土人

が此業を營んで居らぬではないが、其發達は遲々たるもので、當底充分な望みを得難い、然るを我手慣れた養蠶家が彼地に渉つて、先づ肥大た畑地を安直に借り受け、茲に桑の樹を植付けたならば二年も經たぬ間に立派に蠶を養はれる、養蠶の時期が濟めば其前後には他の家蓄なり、何なりと種々雜多の事業はある、何を申すも天産多き地であれば、人工を加へ製造を盛んにすれば、何の位利益の事か今から測られない、況して や江河は縱橫に流れ、海岸には近いので運輸の便は內地同樣、企業家は此際一刻も愚圖〳〵して居る秋でなからう。

諸他の製造業に付ては、貿易品として海城縣地方より、例の阿片が最も多く產出し、各所に製造所を設けられ盛んにやつて居る、降つて蓋平地方の海岸よりは食鹽、熊岳地方からは綿布が製出され、火酒は至る所に製造する、然かも土民は用ゐざる者なく、之を業とせし商人は何れも巨萬の富を得て居るのを見ても、如何に有望なるかを知られるであらう、概して商業の中心は牛莊で、營口よりは海運の便を假りて北淸、朝鮮、日本、上海何れなりと取引が自由に出來る、然して日本人始め諸外國人か土民の增加に連れて、諸種の建築物も必要であらう、此地將來移住民の增加に連の住家に居住するのは困難で、現に今日に於ても牛莊附近には續々人口增加して、當底住むべき家だにない、といふ有樣、無考で渡航する事は其筋に於て禁ずる傾になつて居る、土地の需用する外幾分か北淸地方に運送するものゝ、今後は何うして土地の建物用としても、不足を告ぐるに定まつて居る、されば卒先彼地に是等の事業を企畫したならば、其利益も莫大であらうと思ふ。

渡航の旅費

神戸から牛莊迄の汽船賃金は三等十八圓で、旅順ダルニーへは十五圓、外に雜費を加へて二十五圓もあれば、立派に彼地に渡行される、そして船中では和食、一二等の客に限つて洋食が食べられる、神戸より牛莊へは郵船會社船は二週間に一度、大阪商船は毎月二回往復して居る、乘船の際には神戸、下の關、長崎何處なりと隨意出帆地に行つて、係の者に詳細を聞くがよい。

滿洲重用都港の狀況と目的

滿洲に於ける著名な海港を知つて置くのは、總ての事業上に付ても、其利害に大關係を及ぼすのである、況して初めて渡航を企てる者には一層其必要を感ずるのだ、今念の爲めに主要の港を紹介しよう。

▲旅順口　旅順口と云へば、我軍隊が非常の苦心を以て陷落し、露將ステッセルの率へたる陸海軍隊を降服せしめた地で、其以前は淸國の北洋

艦隊が碇泊所であつたか、後北淸事件の際に露國は茲に兵を停め、幾多無數の砲臺を築き、市には民政廳などを置き、露の官吏私人は續々住居するように至つた、其結果は新市街迄も出來るという有樣で、繁昌は非常なものである、元來此港には商人の貨物揚卸を禁じたが、今は官の許可さいあれば何人でも揚却が出來る、更らに戰後に於ては我政府も同港に新鎭守府を設け、柴山中將をして司令長官たらしめた、今後は種々軍事々業の經營が起るのは定まつた話で、一寸云へば日本軍の爲めに擊沈された幾多の軍艦を始め、諸船舶の引揚事業から、砲臺の修築其他あらゆる工事に付ても、獨り支那人のみを使役して夫れで間に合ふという譯に行かない、勢ひ日本內地より多くの勞働者を送るの必要があらう、かふなると夫れ等人夫に供給する種々の日用品も又、當底土地の物資のみで滿足せられまい、否な寧ろ無數の物資を日本より輸送して、出來得

る限り費ふ金を日本に取戻すような覺悟が、最も肝腎な譯であらう。

現に旅順口に於ける支那店の物價は玉子が一個六錢、玉葱百目二十五錢、日本酒一合十八錢、玉菜百目八錢、栗百目三十錢、干柿は二十錢支那梨一個八錢、ランプホヤ一個六十錢より一圓位、湯錢一回十錢より三十錢、パイナップル一鑵三十五錢、鷄一羽一圓八十錢より二圓內外で、日本內地の相場と比較して果して何うであらう、商賣にかけては稼目のない支那人は、開城後續々入り込んで種々の金儲に駈け走つて居る始末だが、今後は何うして從來の商店位では充分に需用を充たす譯にも及ばぬ話で、日用品外に何程も商賣に見込がある、否な此際日本の商人は彼地に支那商人を排斥すべく、勞働者も、工業家も卒先して旅順の利益を獲得することそ、最も肝腎の事であらう。

▲ダルニーは大連灣內に在る港で、長崎、釜山、太沽、芝罘、仁川、

鎭南浦等よりは內外の船舶が往復する、ダルニー市は遼東半島中第一の市街で、露國は占領後民政廳を置いて、切りに種々の事業を經營した所から、建築物を始め文物の發達は著るしく、內外人の移住は非常に增加したのは事實、其一度は本軍が此地に上陸し占領して後は、半島に運送する物資は悉く此港に陸揚した、今では陸海軍の病院を始め軍事上官衙、旅館、商店等も續々開始され、各地に散在した支那人も切りに入り込んだので、今後は一層盛んな市街をなすに定まつて居る、又支那街にはあらゆる商店があるので、大概の事は辨じられる、思ふに茲二三年間は軍隊及び諸他の勞働者を目的に、日用品を販賣するに於ては、其利益も尠なくないのだ。

▲金州　金洲は普蘭店、貔子窩兩方面から、ダルニー旅順口に通ずる要路で、人口は約三萬五千餘り、西には金州灣あり、南には大連灣等があ

つて、船舶の便宜があり、市此街には却々大きな商人が盛んに輸出入を試み、殊に市日には遠い地方よりも集まつて來る、東淸鐵道は旅順、牛莊、營口、遼陽、奉天至る所の樞要地に通じて居れば、遼東半島中でも一位を爭ふ程の商業地と云つてよろしい。

▲貔子窩　は金州廳を去ること約十五里餘で、營口や大孤山に次での海港と稱へて居る、滿潮とあれば海水は市街に迄も通じ、人口は萬に近く盛んに豆油、高粱の類を輸出する、ソンナ譯で穀問屋、雜貨の問屋が多く、將來此地を目的に商店を開いたならば、少なからぬ利益がある。

▲大孤山　これも滿洲南海岸の良港で、大孤山といふ山は市街の南麓にある、人口は一萬三千餘で、滿洲の北部から産する貨物は、多く此港に集まつて來る、中にも材木の如きは先づ此地に送られて後、南淸地方に輸出されるのだ、其他大豆、綿花、高粱は盛んに輸出し、漁獵も亦行は

れて居る。

▲營口　營口は遼河口の左岸にあつて、滿洲一等の通商港である、牛莊城を去ること約一里半、奉天府の咽喉と申してよろしい、ゝこで內外の船舶が奉天遼陽以北に貨物を送るには、必らず先づ此營口に向けるので、殆んど滿洲の產物は此地に集中し、諸外國からの輸入品も亦此地に送られる、遼河は市街の傍を流れ、之に依つて新民廳、奉天至る所の樞要地に水運の便がある、帝國の領事館を始め郵便局、民政廳は設けられ三井物產會社の支店などもある、大商人は非常に多く、又諸他の工業も此地を以て滿州中第一とする、人口は約八萬餘りに達し、昨今は本邦人の移住者が著るしく增加して、殆んど住むべき家だにないといふ始末になつて居る、氣候は非常に寒いので、十一月頃より三月頃迄は河水全く氷結し、人馬が氷の上を自由に步き得るとか、當地の近傍には製鹽場が

あつて、此種の仲買人も千五百名許りもあり、毎日市街に入り込む車輛の數は五六百もあるといふ有樣、加之に船舶の便宜から致して、日增に商賣は盛大となつて居る、滿州に事業を企つる者は先づ此地に行つて、一般の狀況を知るに限るので、然る後に方針を決せねばならぬ、然し今日の所では大商人、大資本家の外は、住む家だになき始末だによつて當底勞働さい至難いものと承知して貰ひたいのだ。

▲遼陽　遼陽は奉天を離る二十七里餘りで、人口壹萬、東北には太子河あり、鐵道は各地に通じて水陸の便は此土もない、奉天市街を離るゝ十四里、此地近傍は石炭を始め諸種の鑛山に富み、又農業牧畜等にも大に有望である、大小商店の數は營口に次いで多く、今後は一層盛大なる市街を形作るに定まつて居る、されば牧畜を業とする者、商業に從事する者は、宜しく此地に行つて事を爲すがよい、只勞働のみを目的として

は、殆んど望みがなからうと思ふ。

▲奉天　奉天と云へば何人も知らぬ者はあるまい、其位名ある丈に盛んなる市街をなし、人口二十七八萬に達して居る、此地は舊清國の帝都で順治元年さやらに都を燕京に遷してから留京と稱へ、今は奉天府を置き且つ兵營がある、滿州中貿易の中心は茲に在ると申してよろしい、市街は比較的清潔に、商人は直接此地より海外及び北京地方に輸出することはなく、只滿洲內地に賣買せらるゝ貨物を目的とするに止まる。

▲安東縣　安東縣は俗に鎭江と云つて韓國義州へは鴨綠江を隔てゝ僅かに一里半に足りない、人口は六千に近く、殊に夏時は多くの勞働者が入り込み、盛んな伐木事業に從事する者多く、又各種の商店軒を並べ、加之に船舶の便宜がよい所からして、今後に於ては一層盛大となるに相違ない、我軍隊が一度此地を占領した時、總てに於て不便を感じた事はな

く、殆んど京城、營口等の如く物資に滿足したといふ一事に徵しても、如何に開けて居るかを知り得る、勞働者は行け、獨り木材事業のみに限らず、其他なすべき仕事は澤山ある、當に陸上許りに關せず、水上即ち海產物、水運上の勞働に就ごして、先づ此地に足を止めることが出來る。

▲鳳凰城　此地も商賈は却々盛大で、人口は三萬餘に增加し、奉天營口から朝鮮に通ずる要路として、物產も多く定期市場も開かれる、近來は鐵の類が採掘され、內外の事業が切りに入り込み始めた。

▲岫巖　人口は一萬餘で、立派な大商店がある、元來此地の家屋は石造か多く、建築もよく出來て居る、石炭を始め大理石などが產出する所からして、近來は取引も充分盛んに、市場には多くの商人が遠近よりやつて來る。

▲吉林　吉林は吉林省の首府で、松花江の北岸にある、北部滿州の咽喉を占め居り、實に盛京省と黑龍江省に連絡する要地である、市街は最も弘く、松花江の水利は充分に、諸他の商店は城內に充ち、人口は十二萬餘に及んで居る、加之に農業牧畜に付ても有望で、若し邦人の手腕を籍つたならば、何の位收獲を見るか知れまい、如何せん滿州未開人の總てに熟達熱心せぬので、惜むべき事には天然物も遺棄してある。

▲三姓　人口は一萬五千餘、松花江と珊爾哈河と合さる東南岸にある、一は寧古塔一は哈爾賓に至る要路中の都會で、近傍よりは砂金を始め農產、牧畜業には大に見込がある、否な著者は此地を以て滿州の大富源と斷言する、水陸何れも便宜よく、氣候は非常に寒いが敢て邦人に住めぬ事もない。

▲哈爾賓　は露國が滿州軍事上の計畫を施す上に於て、此地を起點とし

た所から、爾來住民も多く、諸他の建築物を結構を極めた、然かも豐饒の地で、山と云へ河と云へ果た田畑と云へ、天產物は充ち て居る、露國は幾十萬の兵隊に供給する物資を、大部分此地より徵發したのを見ても如何に將來事業に付て望みあるかを知り得る、勞働者は行け商人は行け鑛山家は行け牧畜家は行け、何とて此地に利益を獲め得られぬ事はない人口現に五萬五六千餘、諸外國の商人も多く入り込んで居る、ソンナ譯で日々の諸費額は非常に多く、加ふるに東清鐵道は一方長 春府を經て奉天遼陽に、一面は遠く浦鹽斯德に通じて居る、若し夫れ滿州に事を爲さんと欲する者は行つて、露國の實權を奪ふに至つたならば、何の位愉快な事か知れまい。

▲長 春　茲も却々豐天の地で、黑龍江吉林省より出る產物の奉天營口に送らるゝものは、悉く此地の商人か手を經るといふ始末で、又諸他の

豐產物も輸出される、人口は十五萬水陸の便もあり、二三年前から見れば驚く程盛んな市街をなした。

▲齊々哈爾　此地は沙原中にあるので、四面は平坦に黑龍江省中二三位に屬する繁華な地だ、人口は六萬餘り、石材、木材、鑛物の外に農產物として大小麥、粟、高粱、煙草、獸皮等ありとあらゆるものが出來る、殊に有名なのは馬で、此所から產するものを以て軍馬に徵發して居る。

▲鐵嶺　市街は小さいが商賣の盛んな事は驚く程で、年々此地に落ちる金は非常なものである、人口は三萬餘に及び、縣城を去る二十六丁許の地に馬風口といふ所がある、遼河に臨んで運遭の貨物は皆此所に揚卸をする、物產は鐵其他の鑛物、農產物又少なくない、停車場は城の西に設けられ、奉天奉化には最も非ども此地に過ぎんければならぬ、折々市場は開かれ遠近から集まる者も多いのである。

以上述べた外に、内地に於ける貿易地としては、錦洲、奉化、廣寧、復州、田莊臺、新民廳、法庫門、開原縣、海城、通化、寧古塔、懷仁縣、愛琿、賓州、呼蘭、白房蘇々等澤山あるが、一々詳説するに於ては係に渡航者の爲めに最も必要なる事項を紹介しよう。

滿洲案内のみでも一冊の書をなすべければ、茲には之を略して、更らに

滿洲内地市都の市日

滿洲各地方例令ば、奉天、長春、吉林、牛莊の如きを始め、至る所に市場を開かれる、中には毎月常市を開き、年一回若くは二回、六七月乃至八九月頃に於て、五日間とか十日間とか定まつて市がある、此日は遠近の商店さては誰彼の別なく市場に來て、盛に賣買を試みるのだ、夫れ故先づ商賣をする者は、此市場を開くべき日を知らねばならぬ。

渡航者各方面の注意

勞働を目的として行く者、果た商賣の爲めに行く者其誰れとなく、前以て左に述べた事柄を知つておくのは、至つて肝腎な事であらうと思ふ、金を儲けるには夫れ〳〵用意がなければまい、殊に海外に行く者は尚更な譯である、茲に於ては二三の重用事項を擧げて、諸君の參考に供する譯である。

▲輸出入品　滿洲には如何なる品が入り込み、又如何なる産物を海外に輸出するか、商人たる者の宜しく注意せねばならぬ所であらう、所で其一斑は前各貿易地を紹介したのでお分りなつたらうが、尚は念のために述べておかう、輸出品としては牛豚類、大豆、豆油、豆餅、黍、高粱、酒、煙草、麝香、獸皮、脂肪、人參、羊毛、甜瓜種子、干鹽魚、蔴氈類などで、輸入品毎に我國より輸入する品は、石炭、卷煙草、西洋小間物、マツチ附木類、襯衣、木綿糸、蚊帳、銅製薄板、海草、茶、樟腦、洋燈、天巾天竺類である、して大掟後の今日に於ては一層我國より輸出

すべき物品の量と種類も増加したが、尙ほ此外に各内地の情況に依つて、如何なる品を輸送すればよいか諸氏は此邊に充分注意すべき必要が起らう。

▲見込ある商品　我國より送つて儲からうと思ふ商品は、洋傘、時計、卷煙草、賣藥、酒醬油類、紙、呉服太物（木綿絹共）莫大小品（シヤツツ、ポン下の類に屬するもの一切）漬物類、マツチ、陶器、染料品等を始め、特に在日本住民の需用に供する日用品雜貨も大に儲かるであらう、詰り我國の文化を彼れ滿洲の野に吹き込む結果は、朝鮮と同じく廉價で堅固なものを撰ぶべく機敏なる商人は彼我交換して、なるべく日本内地で高く賣れそうな品を持ち歸るのが得策であらう。

▲意匠商標の注意　商標意匠には充分に意を凝らすべく、殊に商標に用ゆる文字の如何及び、圖畫に付ては、よし日本では誠に氣が利いて面白いと思ふても、支那内地にては厭ふものもあるなど、爲めに賣行に大關係を有つて居る、これといふのも人智が開けず、迷信の結果に出づるので、往々かふいふ事實から損をした日本商人も聞いて居るので、さすれば此邊に注意し、先づ農商務省になりと行つて其地駐在領事の報告等なりと取調べ、何處までも彼等の意に叶ふよう、凝らすのが肝腎であらう。

▲電信郵便　電信は支那政府の營んで居るものは、多く官用のみに使はれて、一般公衆には用ゆること少くない、其代り私設として大北電信會社とか、乃至は東北擴張會社なんざいふものがあつて、一私人の電信を取扱ふて居り、外に私設の郵使業は數知れぬ程ある、今日に於ては我軍隊の占領した地には軍用電信を以て、公衆電信を取扱ふことになつたから、實際上非常な便宜がある。

▲賃錢の後拂ひ　或場所に依つては仕事が終つて後でなければ、一切賃錢を拂はんでも濟む習慣がある、即ち鴨綠江下流附近に於ける伐木事業の如きで多くの土民を雇入れ、殆んど無代同様に官林を伐木する、ろして筏を作り大東溝に運搬するのだが、若し洪水の爲めに流れて損をすれば、賃金を拂はぬのでも濟む、かういふ次第で之に要する費用も僅かしら要えぬ上に、利益はと申せば非常なもの殆んど資本の七八割旨く行げば、十二三割にもなるといふ事である。

▲銀行及び類似の業　營口には横濱正金銀行の支店ある外に、日本から出した店はない、之に反して支那人の設けて居る銀行ようなものがある之を銀爐と稱へる、例令ば其他に商家が現金を銀爐に預け、そして手形を發すると銀爐は保證して流通の便利を興へる、此外銀爐は洋銀外の銀貨を鑄改して、改造者の刻印を押捺し、之を流通せしむる商賣で、時には金錢の貸付をなす、銀爐の外に種々類似な營業があつて、中には我邦の質店同樣の營業も澤山見受る、大資本の店では衣服や道具許りでない何に依らず抵當又は質として金を貸して呉れる。

▲問屋と仲買　滿洲內地何處でも云ふ事は難いが、特に商業の盛んな營口牛莊邊に於ては、先一の問屋があつて、來る取引の客は皆な此問屋に投宿する、問屋は客を叮嚀に待遇して呉る、そして何事も依賴に應ずるのであれば、內地の商人は此邊に能く注意して、取引は此問屋に賴むがよい、問屋に次いで仲買なるもの之を經紀とか云つて居る、商品賣買の際仲介者となつて幾分かの手數料を取るのが營業で、元來仲買は自分や客の利益を計るので、荷主を保護するのは寧ろ問屋にある、さすれば何んな時に仲買を利用してよいかを判斷し得よう、手數料は二分以下で、徃々儲けが少ない爲めに客を詐るような事がある、充分注意して可なり

だ。

▲通貨の事、通貨は銀（元寶銀と稱し又俗に馬蹄銀とも云ふ）銅錢、外國銀、票子、軍用切符等である、そして銀即ち馬蹄銀は重量五十三兩五匁と定まり、銀鑛が勝手に鑄造して流通せしめる、此外日本銀貨、各省鑄造の銀貨、墨西哥銀貨なども流用して居る、票子とは所謂手形の事で、商家銀鑛から發行する、又我軍用切符は連戰連勝と共に切りに信用を博し、至る所に流進せざるはなき有樣殊に營口、牛莊、遼陽、奉天附近に於ては銀貨同樣少しも違はないそうである、これ等の事は先づ彼地に行つて能く聞いて見るがよい、只注意すべきは、寒村に赴く際には圓銀の際には墨西哥銀貨を携へ、銅錢（當厘錢の類で）も少しは持つて行かぬと賣買の時に不便を感ずる

▲旅行用携帶品　としては曩に韓國旅行の際說明した通り、先づ大同小異と申してよからう、何を云ふにも滿洲の氣候は寒暑甚だしく、夏は華氏九十度から百度以上に昇り、冬は零度以下十度に降るなど、實に日本から始めて行つた者には困ることがある、此際如何なる物品を携帶すべきか、先づ重なるものを擧げれば、夏季は特に蚊帳、冬は手袋、防寒具、普通は毛布少なくとも二三枚、之れは投宿の際寢具に供するもの、時計磁石、小刀、便器（便所は設け少なくともあるも屋外に在る）筆墨紙、齒磨石鹼類、布切れ（これは途中斷つて用ゐる必要起る）砂糖、醬油、鹽、煙草、菓子其他罐詰佃煮などの副食物、（往々日本人には適せざるものあれば）賣藥、（途中腹痛下痢寒冒の恐あれば）郵便切手、封筒の類であらう。

▲旅行免狀、淸國に渡航するには、朝鮮と同じく渡航の自由あるも、若し上陸後內地を旅行する際には、勢ね帝國領事館に行つて旅行免狀を貰ひ受け、之を證據として至る地の滿洲駐在官吏に見せ、そして相當の保護を求める、これは朝鮮內地を旅行する場合と同一方法なれば、諸氏は

よろしく之を參照するに限る

▲上陸當時、上陸の際には先づ其他の旅館に投宿し荷物に付ての稅關の事や何かは、能く旅館に賴むがよからう、徒らに知つたか振りして自からやつて見たり、行路の人が言を信じてだ詐欺者に引懸るのである、時に彼れ奸物が旋館と共謀して、種々の名目を付けて金錢を取るなど珍らしくなければ、旅館も充分に撰ぶべしだ、只宿賃の安値な許りは利益でない。

▲人夫馬車の雇入れ、人夫や馬車を雇入るゝ際には、先づ行く先、賃金其他雇入れに關する必要な事柄を云はゞ證文に書かせて、夫れをば受取つて置く、さすれば彼等後日彼れ是れ言を左右に任せて、金錢を強請し若くは、荷物を約束の地完全に届ける、朝鮮の内地を旅行する際にも之れと同一で、彼れ支那人中には徃々かふいふ奸物あれば、充分に注意せねばならぬ。

先づ此位に止めて、他は諸氏が彼の地に着いて、夫れ〳〵取り調べて見るがよい。

支那と日本の尺度斗量比較

支那の尺度に付ては分は我が一分一厘〇〇一三七、寸は一寸一分強、尺は一尺一寸一毛三七、丈は一丈一尺一厘三毛七、引は十一丈一分三厘七毛に當り、穀量はコップが我四升二合五勺二抄に、斗は四升二合五勺二抄、シイは六斗七升八合一抄に、マスセンは四合七勺六抄三に、メーツは一升九合七抄、フヰールテルは七升六合一勺六抄四七セフテルは三斗四合六勺五抄餘に相當する、そしてマルテルは我が五斗五升四合三勺五抄餘である、然し滿洲内地でも違ふ所があれば、これは充分注意すべきだ。

最新渡米案内　終

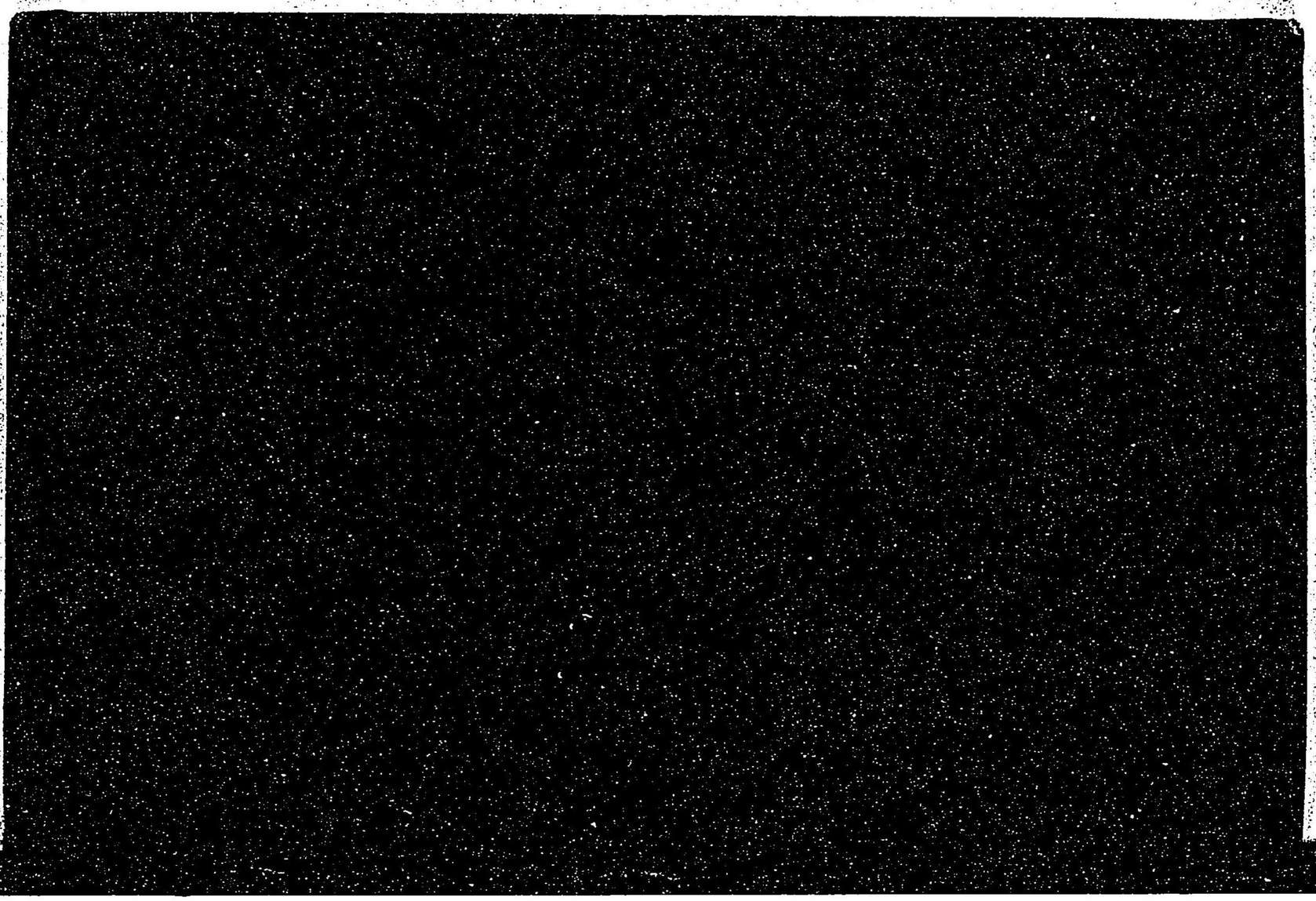
2/5/39

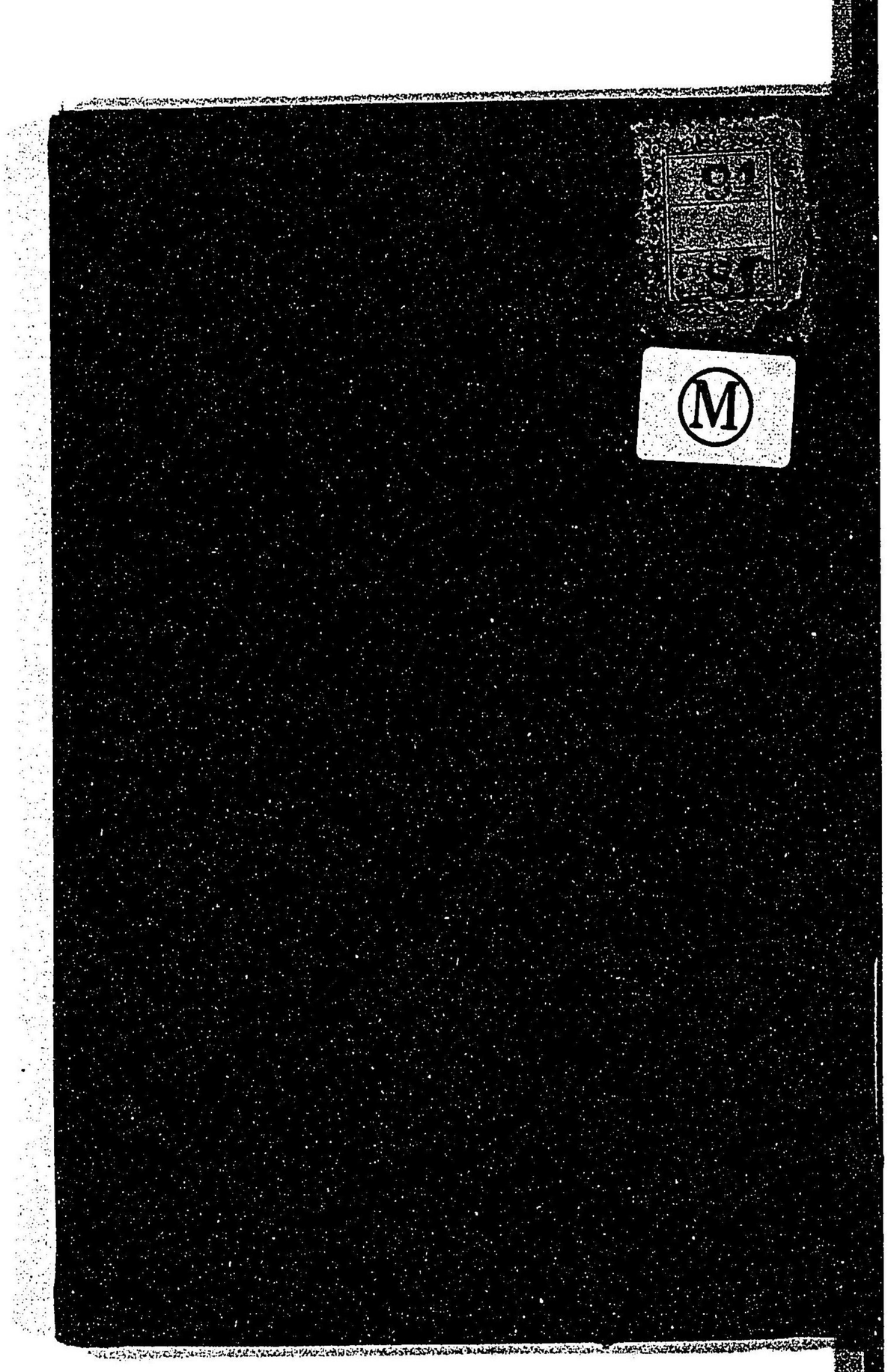
明治三十八年八月廿九日印刷
明治三十八年八月卅日發行
（最新波米案内）
正價金貳拾錢

著作權所有

著作者　岩崎勝三郎
發行者　岩崎鐵次郎
東京市神田區鍋町二十一番地
印刷者　木村榮吉
東京市京橋區采女町十番地
印刷所　文英社
東京市京橋區采女町九番地

發兌元　大學館
東京神田鍋町廿一番地
電話本局三〇六七番





026901-000-5

94-381

最新渡米案内　附，朝鮮満洲案内

岩崎　勝三郎／著

M38

ADG-0019